

【県市町村事例】

名取市における浄化槽整備のとりくみについて

宮城県名取市建設部下水道課

1. 名取市の概要

(1) 名取市の沿革と地勢・気候・交通

名取市（以下、本市）は昭和 30 年 4 月 1 日、2 町 4 ヶ村（増田町、閑上町、下増田村、館腰村、愛島村、高館村）が合併して名取町となり、昭和 33 年 10 月 1 日に市制が施行され名取市となった。

本市は宮城県の南東部に位置し（図 1）、北は仙台市、南は仙台空港を境に岩沼市に接し、総面積は 98.17km² で東西 15km、南北 8km とやや東西に長い形状をしている（図 2）。平地部が市域の 2/3 以上を占め、西部は丘陵地、東部は太平洋に面し、名取川・阿武隈川の両水系に囲まれた肥沃な名取耕土が広がり豊かな自然環境を有している。

土地利用の状況として森林が 27%、農地が 29%、残る宅地と公共用地等が 44%となっており、宮城県全体の状況と比較すると、森林の割合が低く、農地・宅地等の割合が高い傾向にある。

交通の面では、仙台都市圏の中での役割をふまえ、国際空港、東北自動車道（仙台南 IC）、仙台東部道路（名取 IC、名取スマート IC、仙台空港 IC）、J R（名取駅・館腰駅）、仙台空港線（仙台駅と仙台空港を結ぶ仙台空港アクセス鉄道）など、恵まれた高速交通体系を有している。

本市は、昭和 33 年の市政施行以来、仙台圏のベッドタウンとしての一面と、恵まれた交通条件から、大・中規模の宅地造成開発も行われており、自然的土地利用から都市的土地利用への転換がすすんできている。現在、「名取市第 6 次長期総合計画」を策定し、基本理念を“愛されるふるさと ひとり ～共に創る未来へつなぐ～”とし、継続的なまちづくりと共に自然環境と美しい景観等の保全と活用を目標としている（写真 1）。



図 1 名取市の位置



図 2 名取市内の位置図

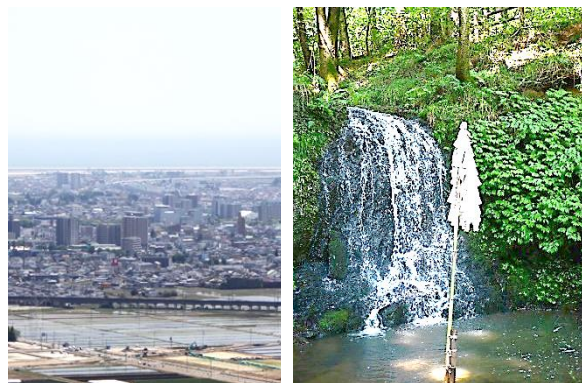


写真 1 市域広域(平野部)・那智の滝(山間部)

(2) 人口・世帯数

本市の人口は東日本大震災直後の平成 23 年を除き、平成 30 年に至るまで着実に人口が増加し、昭和 44 年時点で約 39,000 人であったのに対し、令和元年には 79,000 人に達した（図 3、図 4）。なお、将来人口については、令和 15 年ころに人口のピーク（約 85,000 人）を迎えると見込んでいる。世帯数についても同様に増加傾向であり、昭和 44 年時点で約 9,000 世帯であったのに対し、令和元年には 31,000 世帯に達した。

また、国勢調査による年齢区分別人口には、平成 27 年度年少人口（15 歳未満）15%、生産年齢人口 63%、老年人口（65 歳以上）24%となっているが、人口増加に対して老年人口の伸び率が最も高く、本市においても高齢化が進行している。（図 5）

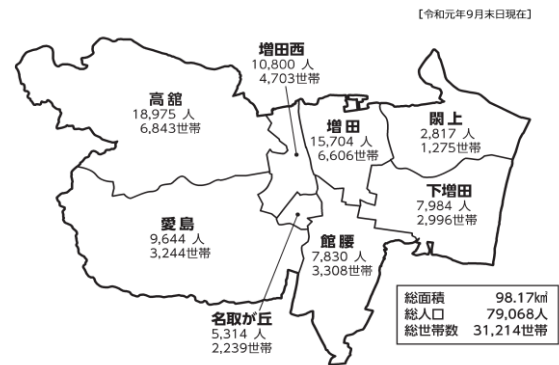


図 3 地区別人口・世帯数
(住基データ)

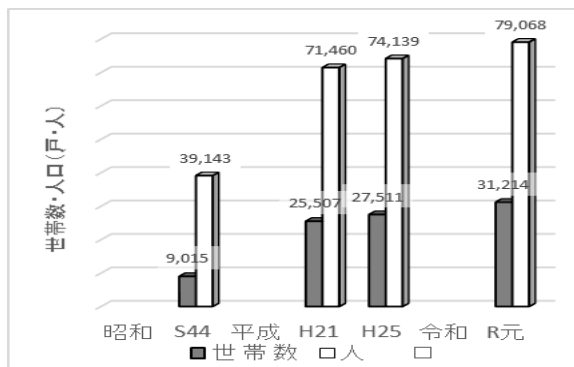


図 4 人口・世帯数の推移
(住基データ)

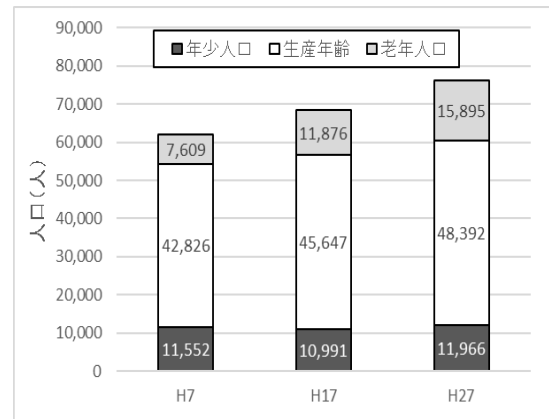


図 5 年齢区分別人口 (国勢調査)

2. 生活排水処理基本計画の概要

(1) 本市の排水処理の経緯

本市の生活排水処理は、①公共下水道、②農業集落排水の 2 種類の生活排水共同処理と、③合併処理浄化槽の生活排水個別処理を採用している（図 6）。生活排水処理の目標年度は、宮城県生活排水処理基本構想に合わせ、令和 17 年度としている。なお、計画人口を 85,000 人とし処理形態別人口は表 1 のとおり設定している。

表 1 処理形態別人口・面積

項目／年度		令和2年度(実績)	令和17年度(目標)	面積(ha)	備考
処理形態別人口	公共下水道人口	72,729人	80,100人	2,505ha	R7に公共下水道へ移行
	農業集落排水処理人口	852人	0人		
	合併処理浄化槽人口	3,715人	4,900人	7,312ha	
	非水洗化人口	2,163人	0人	0ha	
	合計	79,459人	85,000人	9,817ha	

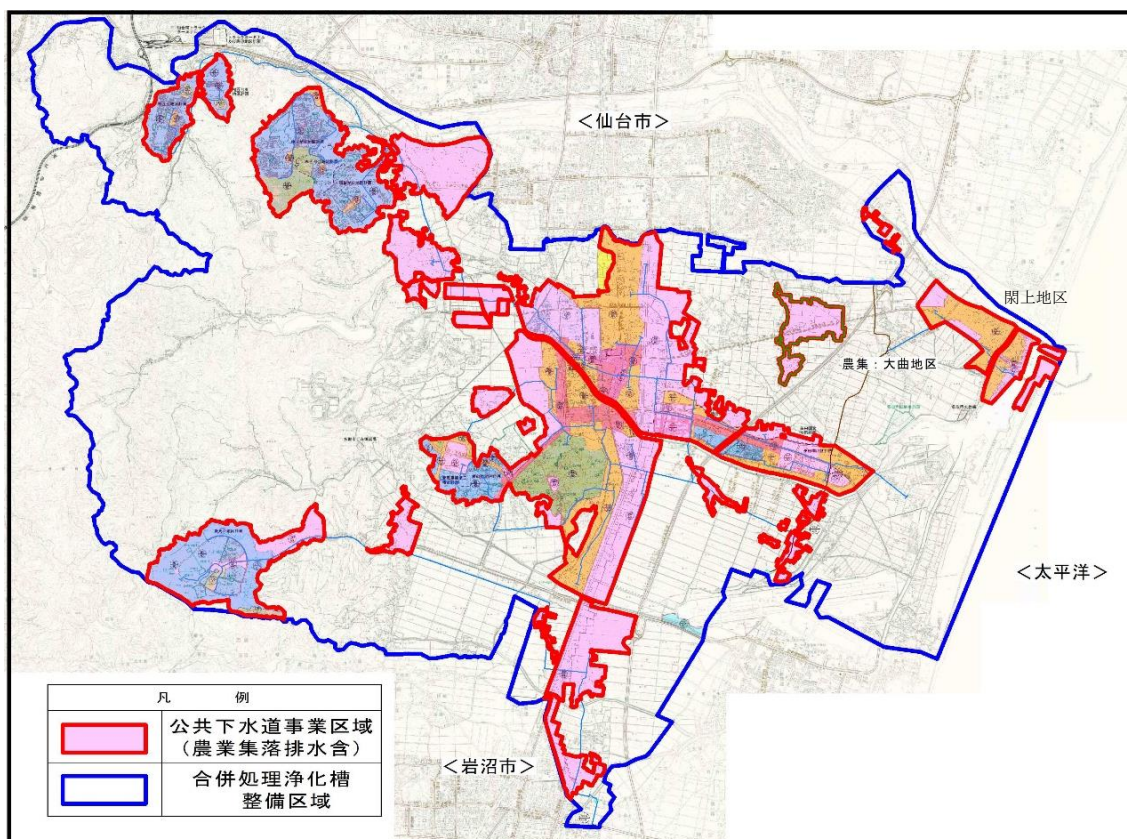


図6 生活排水処理区域図

① 公共下水道事業<計画全体人口に対し94%>

本市の公共下水道事業は昭和51年1月に、阿武隈川下流域下水道の関連公共下水道として、下水道法事業認可を受けて以来、管渠延長として約309kmの整備と、主要な箇所として3箇所のポンプ施設の整備を行った。ピーク時の整備状況としては、年間約29kmの管渠整備を実施し、生活環境の改善及び公共用水域の水質環境を目指し、令和元年度に整備を完了している。

また、平成23年の東日本大震災で甚大な被害を受けた沿岸部閉上地区についても、西側を住居系区域、東側を産業系区域として整備を進め、令和元年度に復旧・復興事業が完了した。(図7、写真2、写真3)。

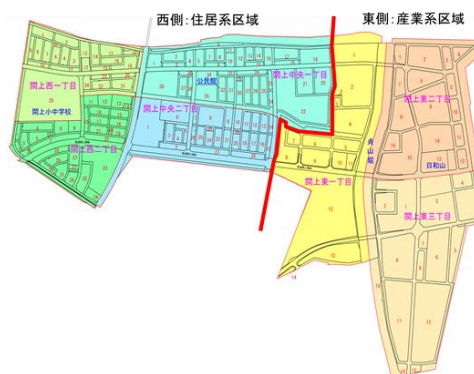


図7 新しい閉上地区



写真2 被災後の状況



写真3 現在の状況

② 農業集落排水事業＜今後公共下水へ移行＞

本市の農業集落排水事業は、内陸部：大曲地区（整備延長：約 1.1km）と沿岸部：北釜地区（整備延長：約 0.6km）において整備を行い、平成 19 年度に整備を完了している。その後の、東日本大震災の津波による被災によって、沿岸部：北釜地区は災害危険区域（居住制限）となったことから、北釜地区の農業集落排水事業は廃止となった。なお、残る内陸部：大曲地区については平成 11 年より供用開始しており、処理施設に大きな老朽化は見られないが、今後施設内の更新整備が増大することと、生活排水共同処理事業の一本化を目的に令和 7 年度に公共下水道への統合予定となっている。

③ 合併処理浄化槽整備事業＜計画人口に対し 6%＞

本市の合併処理浄化槽整備事業は、公共下水道事業、農業集落排水事業を受け、それ以外の地区を合併浄化槽区域と位置付けており、平成 6 年度より事業を開始している。本市では個人設置型を採用しており、区域内の住居に対し合併浄化槽工事に要する費用の一部補助を行っている。なお、事業は環境省所管の循環型社会形成推進交付金の活用を行っている。本事業による整備基数は 1010 基（令和 2 年度末）となっており、整備完了目標年度としている令和 17 年度までに 100% の整備普及を目指している。

(2) 合併処理浄化槽への転換に対する取組み

本市の合併浄化槽区域内の普及率は、現計画人口ベースで76%となっているが、下記の転換対策前の平成19年度では、現計画人口ベースで19%にとどまっていた。

① 設置補助額のかさ上げ（市費充当による）

本市の合併浄化槽補助事業は、平成 6 年の開始当時は 7 人槽で 411,000 円を限度額として浄化槽設置費の一部を助成していたが、平成 20 年度に実施した市全域の排水処理方式の見直し（公共下水道区域の縮小・浄化槽区域の拡大）を背景に、浄化槽補助限度額のかさ上げを実施し（図 8）、同年をピークとして年間 935 人の整備実績となった（図 9）。

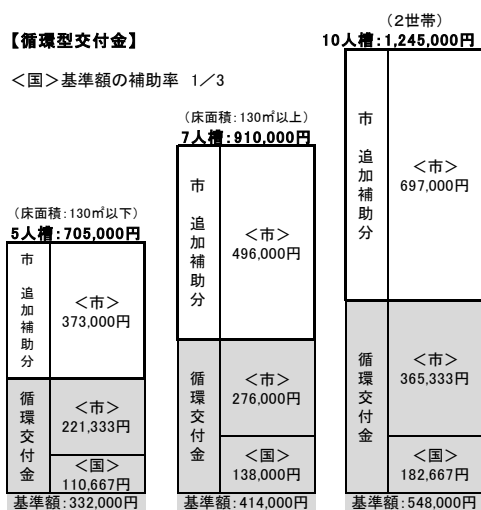


図 8 浄化槽設置補助

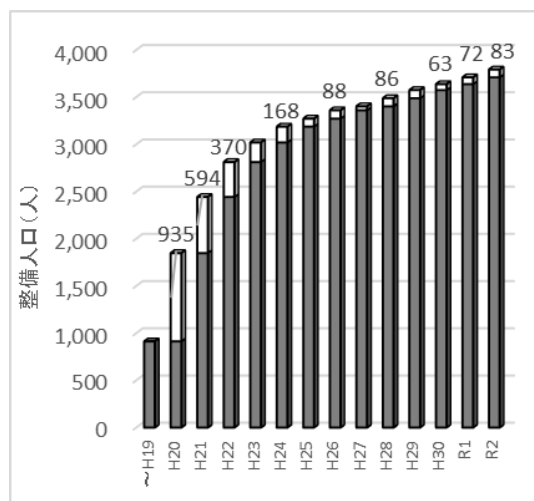


図9 浄化槽年間設置人口の推移

② 普及啓発

本市の令和 2 年度末時点における合併浄化槽普及率（水洗化人口/区域内人口）は 81%で、平成 20 年度をピークに昨今は 60 人/年程度（約 20 基）の増加となっている。未普及世帯の大半は老年世帯となっており、ホームページ等の発信だけでは伝わらないため、年間を通して説明訪問を実施し普及促進を図っている。

(3) 合併浄化槽適正管理に対する取組み

本市では、前年度の実績として、浄化槽区域内で浄化槽を適正に管理された方を対象に維持管理補助金を交付している(表2)。こちらについても、設置費のかさ上げ補助と同様に平成20年度より実施しており、法定検査不適正率は概ね1%未満となっている。しかし、補助区域外(公共下水道区域の浄化槽設置家屋)では4%程度の不適正状況となっている。補助区域外の浄化槽については、公共下水道への切替えと合わせた維持管理の啓発を行っている。

表2 合併処理浄化槽維持管理補助

浄化槽規模	維持管理補助 (円/年)
5人槽	13,000
7人槽	15,000
10人槽	17,000

2. 浄化槽台帳の整備について

令和2年度の改正浄化槽法を受け、本市では浄化槽台帳のデータベース化を予定している(令和3年度実施)。現状の浄化槽台帳は、市独自の様式で管理を行っているが、補助対象外の合併処理浄化槽や単独処理浄化槽等についての台帳化はできていない。また、平面的な管理も直接現地を調査し住宅地図に手書きしており、一元的な平面管理も難しい状況にある。

東日本大震災当時も、被災した浄化槽の状況整理に苦慮したこともあり、不明な浄化槽をなくし、台帳管理のシステム化による浄化槽の適正管理と維持管理の効率化を目的とし、整備を行う。

3. おわりに

本市の水洗化普及率は、市全域で97%、浄化槽区域で81%となっている(令和2年度末人口ベース)。浄化槽区域においては、近年高齢化による年金世帯の増加や後継者、相続の問題もあり、単独処理浄化槽や汲み取りから合併処理浄化槽への転換が進みにくい状況にある。経済的な問題等、個人に負担がかかるものではあるが、公共用水域の水質保全と公衆衛生の改善を図るべく、戸別訪問による合併処理浄化槽の必要性について普及を行い、整備を進める。



名取市マスコットキャラクター
カーナくん